

5 種目別開催要項

(1) 陸上競技

◎ 種 目

- (男) 100m, 200m, 400m, 800m, 1500m, 3000m, 110mH(高さ91.4cm), 4×100mR,
走高跳, 棒高跳, 走幅跳, 三段跳, 砲丸投(5,000kg)
(女) 100m, 200m, 400m, 800m, 1500m, 100mH(高さ76.2cm), 4×100mR,
走高跳, 走幅跳 砲丸投(2,721kg)

◎参加規定

- ・申し込みは学校単位とし、1人1種目とする。ただしリレーをのぞく。
- ・1種目につき1名のエントリーができるが、3000mのみ1校2名以内とする。
- ・すべて共通種目とする。
- ・別紙申込書を使用し、正副2部を期日までに提出するとともに、陸上競技専門部のホームページから申込用紙をダウンロード・入力後、メールでの送信も行うこと。
- ・ナンバーカードは登録番号を使用し、各自で作成する。縦20cm、横27cm(B5サイズ)以上で、1文字の大きさを縦10cm、横5cm以上字幅を1cm程度で、白地に黒で記入したものとする。
- ・ナンバーカードの未登録者は、新規に登録するので、陸上競技専門部のメールアドレスに送信すること。(新規登録番号はホームページの部員登録名簿をご覧ください。)
- ・申し込み後の選手変更は原則として認めない。ただし、健康上の理由で変更する場合やその他の特殊な事情のある場合は、学校長の理由書を専門委員長まで提出する。

陸上競技専門部ホームページ <http://www.yjptf.jp>
メールアドレス senmonbu@yjptf.jp

(3) 体操・新体操(東西合同)

【体操競技】

◎参加規定

- 団体 ・学校単位。
 - ・支部内出場チーム制限なし。
 - ・1チーム4名(3名可)、補員2名、チームリーダー1名。
- 個人 ・自由参加。

◎競技種目(自由演技のみ実施)

- 男子 ・ゆか、あん馬、跳馬、鉄棒
- 女子 ・跳馬、段違い平行棒、平均台、ゆか

◎競技方法

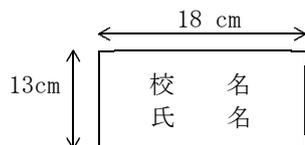
- ・団体は3種目(男子はあん馬、女子は段違い平行棒を除く)のベスト3の合計得点により順位を決定し、3位まで表彰。
- ・個人総合は団体出場、個人出場を問わず4種目の合計点により順位を決定し、6位まで表彰。
- ・種目別は1位のみ表彰。

◎競技規則

- ・(公財)日本体操協会制定男子採点規則2017年度版中学校男子適用規則を適用。
- ・(公財)日本体操協会制定女子採点規則2017年度版変更規則Iを適用。

◎服装

- ・出場選手は、学校マークの入ったユニフォームを着用し、ゼッケンをつける。(団体チームは同一ユニフォームであること。)
- ・ゼッケンは、下図の大きさを男子は黒字、女子は赤字で校名、氏名を記入。



【新体操競技】

◎参加規定

- 団体 ・学校単位。
 - ・支部内出場チーム制限なし。
 - ・1チーム5名、補員3名とする。
- 個人 ・自由参加。

◎手具

- 団体 ・ボール（時間2分15秒～2分30秒）
- 個人 ・フープ ボールの2種目実施（時間1分15秒～1分30秒）

◎競技規則

- ・日本体操協会制定新体操規則、2005年度版及び2007年2月改訂ジュニアルールを適用する。
- ・個人、団体ともAとDの申告書を提出しなければならない。日本体操協会のホームページよりダウンロードした申告書に記入し、提出のこと。

◎服装

- ・団体出場選手は、学校マーク（3cm×3cm以上）のついた同一のレオタードを着用。
- ・個人出場選手は、学校マーク（3cm×3cm以上）のついたレオタードを着用。

(4) 相 撲

◎参加規定

- ・自由参加、学校単位。（各校2チームまで）
- ・団体戦は1チーム3名編成（補員は2名まで）とする。
- ・個人戦は1校10名まで参加できる。（個人戦のみの参加も認める）

◎試合方法

- 団体戦 ・チーム対抗のリーグ戦による。
 - ・参加チーム多数の時は予選リーグ戦の後、上位チームによる決勝トーナメント法による。
 - ・リーグ戦において対戦成績（勝率・勝点）が同じ場合、再試合をして勝ちチームを上位とする。
 - ・メンバー変更は補員をあてるのみ認めるが、正員の位置の移動は認めない。
 - 個人戦 ・トーナメント法による。
 - （軽量級65kg未満、中量級85kg未満、重量級85kg以上）
 - ・参加選手が少ないときは、専門部の判断により、リーグ戦で行う。リーグ戦において対戦成績（勝率）が同じ場合、再試合をして勝ち選手を上位とする。
- ※監督・選手の判定に対する異議申し立ては認めない。

◎その他

- 礼 ・試合前の礼はちりをきる。
- 仕切り ・1回目から待った無しで仕切る。
- 立合い ・仕切り線の後方に両手をついて静止、主審のかけ声で立ち会う。
 - ・試合後は互いに合わせて立礼をし、勝者はそんきよの姿勢で判定を受ける。
- 服装 ・まわしの前に学校名のマークをつけ、前の垂れは三角に折る。まわしは正しくしっかり巻き、最後が長くなったり短くなったりして折り込めないということのないようにすること。

(5) 柔 道

◎参加規定

- ・団体戦…学校対抗、1校1チームでフリー参加。男子1チーム選手5名、補員2名、監督1名。女子1チーム選手3名、補員2名、監督1名。コーチは1校1名以内。メンバー変更は、補員を当てることを認める。尚、退いた選手は、団体戦に出場はできないが、個人戦には出場することができる。チーム編成は体重の最も重い者を大将として、以下順次体重順に編成のこと。
- ・個人戦…男子8階級、女子8階級で行う。
 - 男子50kg 55kg 60kg 66kg 73kg 81kg 90kg 90kg超
 - 女子40kg 44kg 48kg 52kg 57kg 63kg 70kg 70kg超体重の範囲は、前級の体重を超えて、その体重以下とする。
（例）55kg級は、50.1kg～55.0kgとなる。

◎試合方法

- ・男女個人戦参加規定…支部より各階級代表人数については以下の通りとする。
宇部6 山陽小野田4 美祢市4 下関8 長門4 萩・阿武4
- ・団体戦～予選リーグ。決勝トーナメント。
 - ※チーム数により、予選リーグ後決勝リーグ。
 - あるいは、予選を行わずに決勝トーナメントまたは決勝リーグ。
- ・個人戦～原則としてトーナメント方式で行う。（3位決定戦を行う。）
- ・開館8:00、受付8:05、予備計量8:05～8:25、公式計量8:30～9:00
 - 予備計量は選手が各自で行う。公式計量は会場係が行い、1回しか計測できない。
 - 個人戦では、公式計量時の体重が範囲内を示さなければ「失格」となる。

◎日 程

◎服 装

- ・団体戦終了後、個人戦を行う。
- ・柔道衣（上衣・下衣・帯）は、国際柔道連盟試合審判規定に定めるサイズで認証柔道衣とする。認証柔道衣以外での出場は認めない。規定の大きさのゼッケンを着用。

- ◎審判方法
 - ・試合は国際柔道連盟試合審判規定（2014-2016）ならびに「少年大会特別規定」によって行う。（国際柔道連盟試合審判規定改正に伴い変更の可能性有り）
 - ・試合時間は団体戦個人戦とも3分。延長戦は時間無制限とし、ゴールデンスコア(GS)方式とする。
 - ・男女団体戦
 - (1) 判定基準は、「僅差」以上とする。僅差とは「指導」の差が2以上のことである。その内容に満たない場合は「引き分け」とする。優劣の成り立ちは以下のようになる。
「一本」＝「反則勝ち」>「技有り」>「有効」>「僅差」
 - (2) 代表戦の選手は任意で選ぶことができる。3分間で優劣がない場合、延長戦（GS方式）により必ず勝敗を決する。
 - ・男女個人戦
 - (1) 判定基準は「有効」または「指導1」以上とし、優劣がない場合は延長戦（GS方式）により必ず勝敗を決する。
- ◎申し込み
 - ・団体戦、個人戦ともに各学校長印のあるものを提出する。
 - ・支部専門委員長は、個人戦出場者及び参加料支部一覧を作成し、支部長印を捺印のうえ提出する。
- ◎その他
 - ・団体戦において、参加規定人数に達していない場合（男子3名、女子2名以上）でも出場可能。その場合の申し込みは大将の方より順につめて申し込む。
 - ・申し込み後やむをえない理由で登録を変更する場合は、大会一週間前までに連絡すること。（萩西中：中村まで）
 - ・監督打ち合わせ事項を熟読して、不明な点は大会前に問い合わせることが望ましい。なお、監督打ち合わせ事項は、プログラム編成会議後に組合せと同時に周知する。
 - ・引率の先生方には、大会役員を委嘱しますので、ご協力をよろしくお願いします。服装は、審判員に準じた服装（グレーのスラックス、白のシャツ、ネクタイ、上着）。

連絡先

〒758-0057 萩市堀内261

萩市立萩西中学校内 中村好宏

TEL 0838-26-2424 FAX 0838-25-0575

(6) 剣道

- ◎参加規定
 - 団体戦
 - ・男女各支部内実チーム数の1/2。（端数切り上げ）
 - ・主催開催支部は自由参加。
 - 個人戦
 - ・各支部4名。ただし支部内実チーム数7校以上および主催開催支部は8名。
- ◎試合方法
 - 団体戦
 - ・リーグ・トーナメント法
 - 個人戦
 - ・トーナメント法
- ◎日程
 - ・個人戦終了後、団体戦を行う。
- ◎服装
 - ・垂れ（縦18cm、横12cm）に白地で学校名（〇〇中）、姓を明確に記入のこと。つけていない選手は、不戦敗とする。
 - ・参加チームは紅白のタスキ（幅5cm、長さ70cm）を用意すること。
- ◎審判規定
 - ・全日本剣道連盟剣道試合、審判規則並びに剣道試合、審判細則及び平成29年度山口県中体連剣道専門部の申し合わせ事項により行う。
 - ①試合時間
 - ア団体戦
 - ・3分とし、勝敗の決定しないときは引き分けとする。
 - イ個人戦
 - ・3分とし、勝敗の決定しないときは延長戦を行い、勝敗を決定する。
 - ②団体戦の勝敗は勝者数により決定する。
 - ③場外規定は適用する。（試合場 9～11m）
 - ④選手の交代は補員のみ認め、出場区分の変更は認めない。
 - ⑤竹刀は下記の規定の通りとする。（当日厳重な検査を行う）
 - ※長さ 114cm以内。重さ 男440g以上、女400g以上。
 - 先皮 直径25mm以上、長さ50mm以上。

(7) バスケットボール

◎参加規定

- ・引率1名、監督1名、コーチ1名、マネージャー1名、選手15名の計19名までのベンチ入りを認める。

◎試合方法

- ・トーナメント法。
- ・現行の日本バスケットボール協会規則で行う。

◎日程

- ・第1日目 準々決勝まで 第2日目 準決勝、決勝

◎服装

- ・ユニフォームは上下同型同色とし、白色と濃色の2種類を用意すること。
(組み合わせで番号の若いほうが白色。背番号は4～18番とする)

◎使用球

- ・男子は日本バスケットボール協会検定球7号球革製、女子は同6号球を使用。

◎その他

- ・監督・コーチは大会運営、審判に協力すること。
- ・フロアシューズと土足を必ず区別すること。

(8) バレーボール

◎参加規定

- ・男子 自由参加。東西合同開催。申込み前に支部順位を決定して参加すること。
- ・女子 支部内チーム数の3分の1(切り上げ)。
- ・1チームは監督1名、コーチ1名、マネージャー1名(生徒でも可)、選手12名以内とする。
その他2名のボールキーパーを認める。
- ・監督は、当該校の校長・教員であり、引率者としての責任を負う。
- ・外部コーチは、校長が承認し中体連に登録された者に限りベンチ入り認められる。

◎試合方法

- ・トーナメント法。2017年度(公財)日本バレーボール協会競技規則及び中体連申し合わせ事項による。
本年は男子がモルテン球、女子がミカサ球を使用する。

◎日程

- ・男子：第1日目 準決勝まで 第2日目 決勝・3位決定戦
- ・女子：第1日目 準々決勝まで 第2日目 準決勝・決勝

◎服装

- ・ユニフォームは、チームで統一したものを使用し、また、ユニフォームの選手番号は、日本バレーボール協会規定の1～12番が望ましい。文字は鮮明に判別できる数字にすること。監督、コーチ、マネージャー、主将は規定のマークを所定の位置につけること。
- ・監督、コーチ、マネージャー(生徒以外)は統一された服装でベンチに入ること。

◎使用球

- ・検定球4号球。人工皮革のカラーボールとし、各校持ち寄りとする。

◎その他

- ・申し込み用紙に、支部順位を必ず記入すること。
- ・敗者チームから次の試合の審判、線審、スコアラーを出すこと。
- ・フロアへのクーラーの持ち込みは禁止する。
- ・フロアへの飲料水持ち込みは、ストローのついたボトルであれば許可する。
- ・合同チームはそれぞれの校長印が必要となる。

(9) ソフトテニス

◎参加規定

- ・団体戦…支部現有校数(年度当初団体戦が組める学校数)により、2校までは1校、5校までは2校、7校までは3校、10校までは4校、15校までは6校、16校以上は8校とし、開催地枠はなし。1チームは、監督1名と選手8名以内とする。
- ・個人戦…支部現有校数(年度当初個人戦が組める学校数)により、2校までは2ペア、4校までは4ペア、5校までは6ペア、7校までは8ペア、10校までは10ペア、15校までは12ペア、16校以上は16ペアとし、開催地はプラス4ペアとする。1ペアは、監督1名と選手2名とする。

◎試合方法

- ・試合は、(公財)日本ソフトテニス連盟ハンドブックによる。審判については、敗者審判を原則とする。
- ・団体戦は、チーム対抗トーナメント法で、7ゲームマッチとし、いずれかが初戦の対戦までは、3ペア実施し、それ以後は2点先取とする。
- ・個人戦は、トーナメント法で、7ゲームマッチとする。

◎試合日程

- ・第1日目～団体戦 第2日目～個人戦
- ・第1日目が雨天の場合は、監督会議で決行もしくは中止の決定をする。（県体方式・監督・選手が試合会場に集合し、試合について決定する。）
- ・第1日目の団体戦が中止になった場合は、第2日目に団体戦を行う。その場合、個人戦は団体戦の進行状況により進行する。
- ・個人戦が中止となった場合の連絡は、各支部の団体戦に参加した学校で行う。

◎服装

①選手

- ・上は襟付き・半袖のスポーツシャツ、下は膝より上のパンツ・スカートを着用すること。ただし、服装（用具を含めて）の色は華美にならないようにする。スパッツ、スポーツシャツの袖やパンツ・スカートの裾からはみ出すアンダーウェア、ハイネックのアンダーウェアの着用は認めない。
- ・ソックスは、見える部分が白を基調としたもので、くるぶしが隠れるものとする。ハイソックスは認めない。
- ・テニスシューズは白を基調としたものを着用する。
- ・背中のゼッケンは、B5判横【白地】で、文字は黒色で『県名・姓・学校名（〇〇中）』の3段とし、『漢字』または『ひらがな』『カタカナ』を使用すること。ただし、背面プリントは不可。また、同名の学校がある場合は、区別するために学校名を工夫してもよい。

②監督・外部指導者（コーチ）

- ・ベンチ入りをする時は、襟付きのスポーツシャツを着用する。
- ・白を基調としたテニスシューズを着用する。
- ・胸に『監督』または『コーチ』のゼッケンをつけること。ただし、外部指導者（コーチ）の表記は『コーチ』とカタカナで表記する。県名・学校名の表記の仕方は、監督ゼッケンに準ずる。

◎使用球

- ・アカエム、ケンコーボールのいずれかを使用する。

◎その他

- ・大会規定に反した場合は失格とする。
- ・申し込み後の選手ならびに監督の変更は、所定の変更届を提出すること。

背部B5判サイズ

山 口	1 / 4
佐 村	2 / 4
長 府 中	1 / 4

胸部 横15cm

山 口 長 府	1 / 3
監 督	縦10cm 2 / 3

(10) 卓 球

◎参加規定

- 団体戦 ・学校単位。別途出場枠規定により、前年度新人戦出場学校数による比例代表で、決定したチーム数。
・1チームの編成は6～8名とする。（6人制 4名以上）
- 個人戦 ・別途出場枠規定により、前年度新人戦出場学校数による比例代表で、決定した人数。

◎試合方法

- 団体戦 ・4シングルス1ダブルスのチーム対抗トーナメント法。
（同一試合のシングルス・ダブルスは重複して出場できない）
・3点先取，相互審判。
- 個人戦 ・トーナメント法，敗者審判。
- ルール ・本年度日本卓球ルール及び本大会要項に準ずる。

◎服装

- ・ユニフォーム及びラケットは、日本卓球協会公認のものを使用する。
- ・ゼッケンを必ず背面につける。（日本卓球協会制定のものが望ましい15cm×20cm上に選手名下に支部名・学校名）

◎試合球

- ・ニッター，TSP，バタフライのホワイトの40mm公認球。
- ・試合球は、各校（各選手）で準備する。

◎その他

- ・団体戦は、監督・登録コーチ各1名のベンチ入りを認める。
- ・個人戦は、準々決勝より、監督または登録コーチのいずれか1名のベンチ入りを認める。
（登録コーチ名は、必ず参加申込書に記入する）

- ・審判の判定に関する質問等は、個人戦の場合は対戦している選手、団体戦の場合は監督ができるものとする。
- ・団体戦の欠員チームについては、5人のときは1番、4人のときは1番・2番を棄権とする。
- ・タイムアウト制を個人は準々決勝、団体は準決勝より適用する。
- ・個人戦の選手変更は認めない。

(11) 軟式野球

◎参加規定

- ・ベンチ入りできる者は監督（引率責任者）1名、選手18名以内（スコアラーを含む）。また、この他に教員を2名追加することができる。但し、外部指導者コーチが入る場合は1名とし、計21名以内とする。外部指導者コーチは、県中体連に登録した者に限る。
- ・登録選手の変更については、所定の届け出用紙（県中体連HPにてダウンロード）にて登録選手以外の選手との変更を認める。

◎試合方法

- ・トーナメント法、1試合の回数は7回とし、同点の場合は延長2回までとする。これで勝負が決しない場合は特別ルールとする。特別ルールは9回からの継続打順で勝負が決するまで行う。
- ・5回以降7点差が生じた場合はコールドゲームとする。
- ・会場によっては、特別ルールを設けることがある。
- ・ルールは、2017年公認野球規則と中体連申し合わせ事項による。

◎服装

- ・選手は同一のユニフォームを着用し、背番号は1～18（スコアラーを含む）とする。監督、コーチは選手と同一のユニフォームを着用し、コーチは背番号29、監督は背番号30をつける。
- ・コーチでない教員がベンチ入りする場合は、平服（ワイシャツ・ネクタイまたは白ポロシャツ）に選手と同一の帽子とする。但し、女性は考慮する。
- ・ハイカットストッキングは禁止する。

◎危険防止

- ・バットリング、硬式用バット、鉄棒の持ち込みは禁止する。
- ・ネクストバッタースークルでのマスコットバットは許可するが、投球時は、低い姿勢で待つこと。
- ・捕手はレガース・ヘルメット・プロテクター・スロートガード・フェールカップをつけること。投球練習場や控え捕手が投手の投球を受ける際も同様とする。打者・次打者・走者・ランナーコーチャー
- ・ノックの補助員はヘルメットを着用すること。

◎使用球

- ・B球（ケンコー・ナイガイ・マルエス）
- ・1日につき3球準備すること。（雨天時は6球）返却はしない。

◎その他

- ・特記なき事項については、中体連軟式野球専門部申し合わせ事項による。
- ・雨天時の試合進行については、秋の県体方式に準ずる。

(12) ソフトボール（東西合同）

◎参加規定

- ・学校単位及び県中体連で認める合同チーム、自由参加。
- ・合同チームで大会に参加する場合は、「山口県体育大会に関わる合同チーム編成上の規定」に準じて編成する。
- ・申し込み人数は、部長1名、監督1名、コーチ1名、選手18名以内（記録者を含む）の合計21名以内とする。部長・監督は当該校の教員とし、コーチ（外部コーチ）は、県中体連に登録した者に限る。なお、コーチのフィールドイングは認めるが、選手交代、打ち合わせ、抗議などの権限は認めない。

◎試合方法

- ・トーナメント法で試合は7回戦。7回終了時同点の場合は、8回からタイブレーカーにより試合を行う。
- ・1日目（準々決勝まで）は、90分の時間制限を適用する。その際、同点の場合は、次の回からタイブレーカーにより試合を行う。
- ・1日目（準々決勝まで）は、3回以降10点差、5回以降7点差が着いた場合は、コールドゲームとする。
- ・すべてのルールは、2012年度日本ソフトボール協会オフィシャルソフトボールルールによる。（指名選手・リエントリーも採用する。）

◎日程

- ・第1日目 準々決勝まで
- ・第2日目 準決勝・決勝戦

◎服装

- ・チームは、同一ユニフォームを着用し、ユニフォームナンバーをつけること。
- ・選手のユニフォームナンバーは、1番から25番までとし、監督は30番、コーチは31番、主将は10番とする。
- ・捕手、打者、走者、ランナーコーチともヘルメットを着用しなければならない。
- ・捕手は、プロテクター、マスク（スロートガード付）、レガースを使用のこと。

◎使用球

- ・(財)日本ソフトボール協会検定3号ゴム球とする。（ナガセケンコウ、内外ゴム、マルエス）
- ・1試合につき新球を2球準備のこと。

◎その他

- ・8：30より監督者会議を行う。

(13) サッカー

◎参加規定

- ・1チームは、引率、監督、コーチ各1名、選手18名以内の計21名以内とする。
- ・参加生徒の引率・監督は、出場校の校長・教員とする。
- ・コーチ（部外コーチ）は、県中体連に登録された者に限る。

◎試合方法

- ・ノックアウト方式による。ただし3位決定戦は行わない。
- ・(財)日本サッカー協会制定の「サッカー競技規則2016/2017」による。その他は大会要項による。
- ・50分（25分ハーフ）ゲームとし、同点の場合は10分（5分ハーフ）の延長戦を行い、なお決しない場合はPK方式により、次回戦に進出するチームを決定する。決勝戦においては、延長戦でも勝敗が決しない場合、10分（5分ハーフ）の再延長戦を行い、なお決しない場合はPK方式により順位を決定する。

◎服装

- ・4色からなる2種類のユニフォームを用意する。（上着、パンツ、ストッキング全て2種類の色を用意し、フィールドプレーヤーとゴールキーパーの色は、全て異なること。）
- ・審判と同一色または類似色（黒又は紺）のユニフォームを上着に用いることはできない。また、ユニフォームの上着が縞の場合は、台布（30cm×30cm）に背番号をつけ、分かりやすくすること。
- ・背番号は、1～99までとする。（副のユニフォームについても同様である。）

◎使用球

- ・5号球。競技規則第2条に適合するものとする。（持ち寄り）

(14) ハンドボール（東西合同）

◎参加規定

- ・自由参加。合同チームで大会に参加する場合は「山口県体育大会に関わる合同チーム編成上の規定」に準じて編成する。
- ・メンバーは15名申し込めるが1ゲーム、1チーム正員7名、交代要員8名、計15名とする。
- ・背番号は大会申込番号と同一でなければならない。

◎試合方法

- ・トーナメント法。ルールは平成25年度日本ハンドボール協会競技規則に準じる。
- ・試合方法は参加チーム数によって変更することもある。

◎服装

- ・コートプレーヤーは、同一ユニフォームを着用し、ゴールキーパーは、はっきり区別できるものを用いる。
- ・濃淡2着のユニフォームを準備すること。
- ・黒・濃紺のユニフォームを用いない。
- ・体育館専用シューズを準備すること。
- ・松ヤニスプレー（滑り止め）使用不可。粘着テープのみ可。

◎使用球

- ・手縫い皮張り2号（ミカサ、モルテン）

(15) 弓道（東西合同）

◎参加規定

- ・団体競技 男子の部 女子の部
- ・個人競技 男子の部 女子の部
- ・団体は男女とも5名1チーム

- ・選手変更は、個人戦と団体戦の出場者の間での差し替えのみ1名に限り競技開始までに申し出があれば認めるが、立順の変更は認めない。1名欠損を生じた場合、4名で団体への参加を認める。
- ・個人戦のみ、参加者の人数は制限しない。

◎試合方法

- ・射程距離 28m36cm霞的を使用。
- ・射数は、各自2・4・4の10射とする。
- ・審判は、全日本弓道連盟競技規則及び山口県中学校弓道競技規則による。
- ・団体戦は、個人戦も兼ねる。

◎服装

- ・トレパン又はズボン、スカート、トレーニングシャツ。袴を着用してもよい。ただし、袴着用の際は、足袋を着用すること。
- ・女子は、胸当てを使用すること。

(16) バドミントン (東西合同)

○参加規定

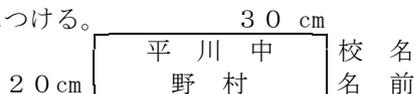
- ・団体 男女とも学校単位、各支部2チームまで。ただし、支部4チーム以上の支部は3チーム、6チーム以上は4チーム、9チーム以上は5チームとする。1チーム編成は5～7人とする。
- ・個人 支部団体0～1校は2複2単まで、2～4校は4複4単、5～6校は6複6単、7校以上は8複8単とする。

○試合方法

- ・団体戦 トーナメント方式
2複1単、同一対抗で単と複は兼ねられない。
複→単→複の順で行う。
- ・個人戦 単・複ともトーナメント方式。同一選手が単複は兼ねられない。

○その他

- ・服装は、日本バドミントン協会検定合格品を使用し、必ず体育館専用シューズを履くこと。
- ・試合球は、日本バドミントン協会検定合格球(エアロセンサ700、3番)とし、出場選手数に応じた数を持ち寄る。
- ・ゼッケンは、右図の通りとし背面につける。



(18) テニス (東西合同)

◎参加規定

①個人戦シングルス

- ・前年度の秋季大会の8位までの選手は出場権を与える。
- ・各学校男女とも、出場権を与えられた選手以外に3名以内とする。

②個人戦ダブルス

- ・各学校男女とも3ペア以内とする。

③団体戦

- ・6名を登録選手とする。

◎試合方法

- ・平成29年度 (公財)日本テニス協会の競技規則による。
- ・個人戦・団体戦とも、1セットマッチ(6-6タイブレーク)。但し申込数により変更あり。

①個人戦 ・試合方法はトーナメント方式。

②団体戦 ・1シングルス、2ダブルスの3ポイントで実施する。出場順位はフリーとする。

- ・シングルスとダブルスを兼ねて出場することはできない。但し、1シングルス・1ダブルス(計3名)での出場は可(2ダブルスは不可)とし、ダブルス2を失ったものとして対戦を行う。

◎試合日程

第1日目		第2日目	
〈団体戦・個人戦ダブルス・シングルス〉		〈個人戦シングルス〉	
集合・受付	8:00～8:15	集合・受付	8:00～8:15
コート整備・解放	8:00～8:30	コート整備・解放	8:00～8:30
監督者会議	8:15～8:30	監督者会議	8:15～8:30
開会式	8:35～	開会式	8:35～
試合開始	9:00	試合開始	9:00

※第1日目の個人戦シングルスは、団体戦・個人戦ダブルスに出場している選手のみ実施する。

◎使用球

- ・今大会の使用球は、ブリヂストン社の「XT-8」とする。
- ・ボールは、各学校持ち寄りとする。（必ず未開封のもの）
- ・個人戦については、シングルス1名につき2球、ダブルス1ペアにつき2球、団体戦については、1チーム6球を当日持参し、受付時に本部に提出する。

◎服装

- ・通常テニスウェアとして認められているもの。（襟つきのものとする）

◎その他

- ・受付は、各学校ごとに監督・引率者がまとめておこなうこと。
- ・全ての試合日に、監督・引率会議を行うので、監督・引率者は全員参加すること。
- ・参加選手・引率者は、会場設営、片づけに協力すること。
- ・団体戦のベンチコーチは、登録された監督（教員）・コーチ（教員・外部指導者）・登録選手とする。

(2) 水 泳（東西合同）

◎種目

種 目	自由形		平泳ぎ	バタフライ
第1日目	50	200 800(女) 1500(男)	200	200
第2日目	100	400	100	100

種 目	背泳ぎ	個人メドレー	リレー	メドレーリレー
第1日目	200	400	4×50 4×100	
第2日目	100	200		4×100

◎出場資格

- ・山口県内の中学校に在学している者。

◎競技方法

- ・学校対抗とする。
- ・2017年度日本水泳連盟が定める競技規則に則って行う。
- ・1種目1校3名以内。1名2種目以内。（但しリレーは除く）
- ・全種目をタイム決勝とする。

◎申し込み方法

- ・制限タイム 1500m自由形は23分00秒 800m自由形は13分00秒（厳守）
- ・申込書 正1通（Web SWMSYS入力後、プリントアウトしたもの）
- ・参加校から必ず1名役員を出すこと。
- ・申込先及び申込期日 5月17日（水）正午必着
〒741-0027 岩国市中津町2丁目22-25 岩国市立川下中学校
新庄 暁 宛

◎その他

- ・各水泳大会要項冊子（年度始め4月25日以降配布）を参照ください。

6 申し込み方法

①申込書

- ・各校理事は、顧問から提出された種目別申込書を取りまとめ、学校申込書一覧を添えて、支部理事長に提出のこと。
- ・支部理事長は、各校から提出された種目別申込書を取りまとめ、支部申込書一覧を添えて、県中体連総会時に持参のこと。

②締め切り

- ・ 4月25日（火）の県中体連総会時に持参ください。（水泳競技は前記）
- ・ 陸上競技については前記のとおりメール送信も合わせて行うこと。
- ・ 予選期日の関係で万一申し込みが遅れる場合は、その旨を必ず締め切り期日までに県中体連西部事務局にご連絡ください。
- ・ 締め切り日以後は受け付けません。
- ・ 全種目について、出場申込みは学校長の責任において行うこと。

③事務局所在地

山口県中学校体育連盟西部地区連絡協議会

〒755-0153 宇部市床波4-1-40 宇部市立西岐波中学校内

Tel (0836) 51-9052 Fax (0836) 51-6367

7 宿 泊

①宿泊は、各学校の責任において別紙申込書でお願いします。各支部、各学校から直接、旅館組合・観光協会へお申し込みください。

※連絡先 宇部市：宇部旅館組合 宇部市上町1丁目8-6-1

TEL (0836) 32-7788

下 関：下関観光協会(社) 下関市唐戸4-1

TEL (0832) 23-1144

②申込書と同時に、予約金（2,000円）を添えること。指定の旅館があれば書いてください。

（必ずその旅館に宿泊できるかはわかりません）

③5月15日の宿泊の17時を過ぎる申し込みについては、宿泊は可能ですが、夕食が準備できないことがあります。

④宿泊料 1泊2食 5,775円（消費税込み）

⑤宿泊する旅館が決定したら、旅館組合・観光協会から直接各学校の顧問に連絡があります。